

定期調査：「食品主要 195 社」価格改定動向調査 — 2023 年 6 月

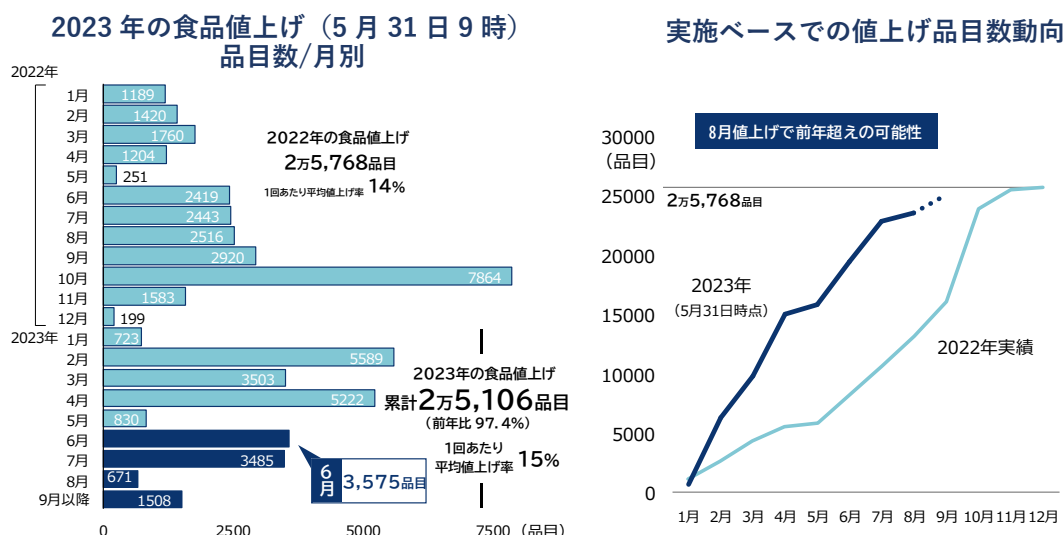
食品値上げ、緩やかにペース減速へ

「値上げ疲れ」鮮明、年後半は値上げ控えも

6 月は 3600 品目対象、「カップめん」500 品目の一斉値上げ

2023 年の値上げは、鶏卵の供給不足といったイレギュラーに直面しながらも、昨年大幅に上昇した原材料コストの増加分について価格転嫁が進んでいる。今後は、小型 PET ボトル製品など 23 年中の値上げが表明されていない飲食料品の値上げ動向に加え、6 月以降に引き上げられる電気代、人件費など、新たなコストアップ増への対応が注目される。2023 年の値上げは、少なくとも今秋にかけて断続的に続き、7 月にも予定ベースで年間 3 万品目を突破するとみられる。

一方で、足元では物価上昇に比べて家計の食費支出は勢いを欠いている。複数回にわたって値上げが行われた市販用冷凍食品をはじめ、値上げ後に店頭売れ行きが伸び悩む食品もあり、度重なる値上げについていけない消費者の「値上げ疲れ」「生活防衛」志向が鮮明となっている。150 円を超える昨年以上の円安進行といった突発的なイレギュラーの発生を除けば、一部にとどまる価格据え置きや値下げといった「値上げ控え」の動きが、年後半にかけて広がる可能性もある。



[注] 調査時点の食品上場105社のほか、全国展開を行う非上場食品90社を含めた主要195社の2022-23年価格改定計画。実施済みを含む。
品目数は再値上げなど重複を含む

[注] 品目数および値上げは、各社発表に基づく。また、年内に複数回値上げを行った品目は、それぞれ別品目としてカウントした。値上げ率は発表時点における最大値を採用した。なお、価格据え置き・内容量減による「実質値上げ」も対象に含む

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

【問い合わせ先】 飯島 大介 03-5919-9343 (直通) daisuke.iijima@mail.tdb.co.jp

情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

「値上げ疲れ」鮮明に 8 月に年 3 万品目へ到達予想も、値上げペース鈍化

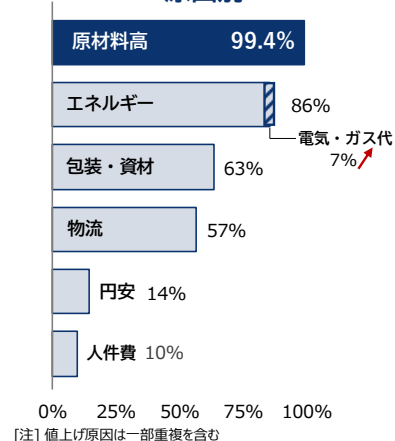
2023 年における家庭用を中心とした飲食料品の値上げ品目数は、5 月 31 日までの判明ベースで累計 2 万 5106 品目に上った。昨年以降、調査対象 195 社のうち 9 割超の企業で 1 回以上の値上げが行われた。また、前年に実施された値上げ累計品目数（2 万 5768 品目）からは 97.4%の水準に達した。

2023 年 6 月単月の値上げ品目数は、加工食品と調味料を中心に 3575 品目となった。前年 6 月（2419 品目）から約 1.5 倍の品目数となるなど、値上げはハイペースが続く。6 月以降の推移をみると、7 月は業務用小麦粉の値上げを受けたパン製品約 1500 品目を中心に、2 カ月連続で 1 カ月当たり 3000 品目超の値上げとなる。8 月以降も、乳価改定を受けて乳児用ミルクやチーズなどの乳製品で値上げが予定され、今秋にかけて 1 カ月あたり 2000 品目前後の値上げが続く見通し。

足元では、昨年発生した原材料価格の上昇分について価格転嫁が一巡した傾向もみられ、食品全体の急ピッチな値上げは今春を境にピークアウトするなど、値上げペースは年後半にかけて減速の兆しもみられる。ただし、電気・ガス代が新たな値上げ圧力として広がることから値上げは緩やかながらも断続的に続くともみられ、予定ベースで 6 月には前年を超える値上げが判明する見通しで、7 月にも年内 3 万品目に到達する予想となる。

2023 年に予定される値上げ約 2 万 5000 品目のうち、原材料高が理由となるものは 99%以上（品目数ベース）と、ほぼ全てで原材料高が理由にあげられた。一方、足元では電気・ガス代上昇に伴う値上げの割合が 7%（5 月末：6%）に拡大し、エネルギー価格高騰による影響が広がっている。

2023 年の値上げ原因別



6 月は「カップめん」500 品目超の一斉値上げ 7 月は「パン」で 1500 品目の値上げラッシュに

2023 年 6 月の値上げは、「調味料」（1674 品目）が 22 年 11 月以来となる全食品分野での最多となった。家庭用つゆ・だし製品やチューブ練りわさび製品などで値上げが実施される。「加工食品」（1612 品目）は、500 品目超が対象の「カップめん」など即席めん製品が中心となる。

2023 年通年では、「加工食品」（1 万 219 品目）、「パン」（1599 品目）でそれぞれ前年を超えた。「調味料」（5901 品目）、「菓子」（1688 品目）、「乳製品」（1046 品目）も前年比 8～9 割前後の水準に上り、前年超えが確実とみられる。

主な食品分野 価格改定の動向

[注] ()内は2022年の実績値。22年・23年と計195社の値上げ品目数

	加工食品	調味料	酒類・飲料	菓子	乳製品 (牛乳・ヨーグルト)	パン
年間 品目数	10,219 (9,468)	5,901 (5,953)	4,127 (5,063)	1,688 (1,967)	1,046 (1,225)	1,599 (1,494)
6月 品目数	1,612	1,674	94	158	37	—
1回あたり 平均値上げ率	15% ↓ (14%)	9% ↓ (14%)	10% ↓ (14%)	7% (12%)	8% (10%)	4% (10%)
背景	食肉・水産品などの価格高騰 物流費の上昇 電気・ガス代の上昇	砂糖、食用油の価格高騰 包装資材費の上昇 鶏卵の供給不足・価格高騰	円安による輸入コスト増 缶・ペットボトルなど包装資材費の上昇	食用油の価格高騰 物流費の上昇 エネルギーコストの上昇	原材料価格の上昇 包装資材・運輸コストの上昇 飼料価格高騰	小麦・卵・乳製品価格の上昇 包装資材・運輸コストの上昇 電気・ガス代の上昇
主な食品	冷凍食品、水産缶詰 シリアル食品 チルド麺・カップ麺	醤油、ソース、ケチャップ みそ・しょうゆ、香辛料 だし製品	輸入ワイン・ウイスキー類 発泡酒・新ジャンル エナジードリンク・豆乳	米菓・アイスクリーム製品 スナック・チョコレート菓子 ゼリー製品	パック牛乳 ヨーグルト・乳酸菌飲料 乳幼児用粉ミルク類	食パン・菓子パン 調理パン（サンドイッチなど）